

(公印省略)

15病防第1号の10
平成15年12月26日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、病害虫発生予報第10号を発表したので送付します。

平成15年度病害虫発生予報第10号
主要病害虫の発生現況及び予報の概要

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
冬春トマト	葉かび病 灰色かび病 菌核病	多い 並 並	多い 並 並
冬春ナス	すすかび病 うどんこ病 菌核病 灰色かび病	やや多い 多い やや多い 並	やや多い 多い やや多い 並
冬春キュウリ	褐斑病 べと病 うどんこ病 灰色かび病	多い 少ない 並 並	多い 少ない 並 並
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 ハダニ類 アブラムシ類	多い 並 多い 並	やや多い 並 多い 並
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	少ない やや少ない 並	少ない やや少ない 並
レタス	腐敗病 灰色かび病 菌核病	多い 並 やや少ない	やや多い 並 やや少ない
野菜共通	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	並 並	並 並

【野 菜】

1 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は6.9%（平年：0.5%、前年：1.1%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発生が助長されるので、草勢が低下しないよう適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病前または発病初期の防除を徹底する。

エ 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ・テ・ション散布する。

カ 薬剤防除については使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病害虫についても同様）。

2 ナスのすすかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は9.3%（平年：6.5%、前年：4.5%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、草勢が低下しないよう着果量調整や、適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。

カ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ・テ・ション散布する。

3 ナスのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は11.3%（平年：1.7%、前年：7.8%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝・剪定や不用な下葉除去を行い、通風、採光をよくする。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤を口 - テ - ション散布する。

4 ナスの菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

ア 1 2 月 3 半旬調査の結果、発病果率は 0 . 6 % (平年 : 0 . 1 % 、 前年 : 0 . 9 %) であった。

イ 気象予報では、1 月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 比較的低温で多湿の場合に発病しやすいので、ハウスの換気を行い多湿にならないよう管理するとともに、発病初期の防除を徹底する。

イ 発病果、発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤を口 - テ - ション散布する。

5 キュウリの褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 1 2 月 3 半旬調査の結果、発病葉率は 1 1 . 3 % (平年 : 0 % 、 前年 : 0 %) であった。

イ 気象予報では、1 月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発生が助長されるので、草勢が低下しないよう適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤を口 - テ - ション散布する。

6 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 1 2 月 3 半旬調査の結果、発病株率は 7 . 8 % (平年 : 4 . 5 % 、 前年 : 3 . 9 %) であった。多発しているほ場も一部で見られる。

イ 気象予報では、1 月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面を随時観察し、早期発見に努める。

イ 下葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかるようにする。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤を口 - テ - ション散布する。

7 イチゴのハダニ類（平成15年11月17日発表の注意報第9号参照）

- (1) 予報の内容
発生量：平年・前年より多い
- (2) 予報の根拠
 - ア 12月3半旬調査の結果、寄生株率は14.2%（平年：1.5%、前年：0%）であった。
 - イ 気象予報では、1月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 厳寒期は、ハダニ類の増加は緩慢となるが、温度が上がる2月頃から急激に密度が高くなるので、発生状況に注意する。
 - イ 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。
 - ウ イチゴ以外の植物にも寄生するので除草を行う。
 - エ 寄生した株のかぎ取った下葉や除草した雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。
 - オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ・テ・ション散布する。

8 キャベツのコナガ

- (1) 予報の内容
発生量：平年並で、前年より多い
- (2) 予報の根拠
 - ア 12月3半旬調査の結果、寄生株率は6.7%（平年：9.8%、前年：1.0%）であった。
 - イ 気象予報では、1月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 老齢幼虫には薬剤の効果が高いので、1～2齢幼虫を対象に防除を実施する。
 - イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をロ・テ・ション散布する。

9 レタスの腐敗病

- (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多く、前年並
- (2) 予報の根拠
 - ア 12月3半旬調査の結果、発病株率は1.4%（平年：0.3%、前年：1.4%）であった。
 - イ 気象予報では、1月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 薬剤防除は発病初期のうちから実施する。
 - イ トンネル管理をこまめに行い、寒害防止やトンネル内が多湿にならないようにする。
 - ウ 発病株はほ場に放置せず、ほ場外へ持ち出し処分する。

1月の気象予報（1か月）

（予報期間 12月20日～1月19日）

2003年12月19日

福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多い可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

- < 1週目の予報 > 12月20日～12月26日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 12月27日～1月2日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 1月3日～1月16日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量 (mm)	日照時間 (h)	1週目	2週目	3-4週目
7.1	68.0	103.3	7.9	7.5	6.8

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp